

会 報

平成18年11月20日

教育者会議

第 4 号

北 海 道

発行：北海道北方領土教育者会議

事務局：北方領土復帰期成同盟内 (電話) 011-205-6500 (FAX) 011-205-6501

〒060-0031 札幌市中央区北1条東1丁目2-5 明治安田生命札幌北1条東ビル7階

『北方領土教育研究セミナー』終了！

当北海道北方領土教育者会議が主管団体に加わって、北方領土教育の授業実践を拡大しようとの目的で教員対象で開催する「北方領土教育研究セミナー」ですが、今年度は胆振社会科教育連盟の全面的な協力により、予定通り10月6日苫小牧市立若草小学校を会場に開催することができました。

参加者は総計50名になりました。

外務省・内閣府北方対策本部・道・道教委・苫小牧市教委の後援をいただき、胆振教育局の支援で助言者を派遣していただきました。参加呼びかけでは苫小牧市校長会にもご尽力いただきました。

北海道北方領土教育者会議会員の根室市立北斗小学校関口先生が5年生の授業を公開しました。

初めて顔を合わせた子どもたちでしたから戸惑いもあったと思いますが、熱心な事前研究と活発な子どもたちが相乗効果を発揮し、参加者には北方領土学習の基礎的基本的な指導内容が伝わったと感じました。



元島民で択捉島の小学校を卒業した宮下さんのお話は、当時の島の生活や産業、戦後の歴史、返還への思い等、当事者でなければ伺えない内容で時間不足が申し訳ない気がしました。「学校教育の中でぜひ子どもたちに伝えて欲しい」という宮下さんの結びの言葉には重いものがありました。

教員の目でビザなし訪問を報告した近江先生は、豊富な写真をプロジェクターで映写しながら、ちょうど“拿捕・銃撃事件”と重なった緊迫感も加わり、参加者をひきつけるものでした。偶然にも宮下さん出身の択捉島訪問であり宮下さんも知らない現在の島の様子もあり、ご本人も強い関心を持たれていました。

島の昔と今とを同時に伝えることができたことは大きな意義があったと考えています。

今後、胆振地区で北方領土学習が広がっていくきっかけになり、実践する先生が増えることを願っています。

1年間の準備にご苦勞をおかけした胆振社会科教育連盟に心から感謝をしております。

北方同盟発行

『小学生用学習資料』に関するお願い

既にお送りしている『小学生用学習資料』を2007年版として改訂する作業に入っています。会報第3号でお願いしましたが、ぜひご意見をお寄せください。

ア 改訂をするとよい事項及びその内容等。

イ 手に取った子どもの声・反応・感想等。

ウ この資料を(一部分でもよい)使った授業事例＝机上の案でO.K。

2007年版には教師用の授業事例を添付する計画なので資料が欲しい!

授業案の形式にこだわらず、アイデアだけでも大歓迎。

アは11月中、イ、ウは1月末頃までをお願いします。

先生のお力をお貸しください。

お待ちしております。

◎ 北海道北方領土教育者会議からの推薦で、2名の先生が8/18～21の四島交流訪問(択捉島)に参加しました。

函館の近江先生と札幌の山岸先生です。お二人とも教育者会議に登録しています。近江先生には「セミナー」で訪問報告をしていただきました。(詳細は記録集に掲載します)

今号では山岸先生の『訪問報告』を資料として同封しましたので、お読みください。

会員にはまだまだビザなし交流訪問に参加を希望する方がおります。推薦枠が少なく、もっと教員の参加枠を増やして欲しいと思いますが、難しい面はあります。引き続き働きかけは継続していきたいと思えます。

学校教育での北方領土学習の充実・拡充が強く叫ばれている今、教員の参加機会を増やすような具体策も各関係機関には考えて欲しいと思っています。

“いじめ問題” “未履修” “不祥事” 等々、愁眉の問題が続いていますが、教育への風当たりは冷静さを失っているような雰囲気も感じます。

現場の先生方はどんな気持ちで日々子どもたちと接しているのでしょうか。

心痛むニュースの続く昨今です。心と体、双方の健康保持に心がけて日々の教育実践にお励みください。あきらめは禁物です。教育問題も北方領土問題も共に、希望を失うことのない地道な積み重ねで“根っこ”が強くなり、《♪芽が出て…ふくらんで…♪》となることを信じています。